

「孫たち」とともに

校長 武井 正明

昨日の朝刊に、毎朝 20 分家に寄ってからの登校を、9 年間してきたお孫さんを綴ったおばあちゃんの投稿が載っていた。新聞の一面から漢字を 5 つ出題する習慣もあったという。保育園時代から続けていただけに、卒業の嬉しさと寂しさとが入り混じったものだった。

いいなあ…。こんな感じでお孫さんとコミュニケーションを重ねるなんて憧れだなあ。孫って可愛いだろうなあ…。

オレもいつかは…なんて思いつつも私には今、吉中に 500 人以上の可愛い「孫たち」がいるじゃないか。

先週金曜日の放課後。その「孫たち」4 人が、校長室に来てくれた。

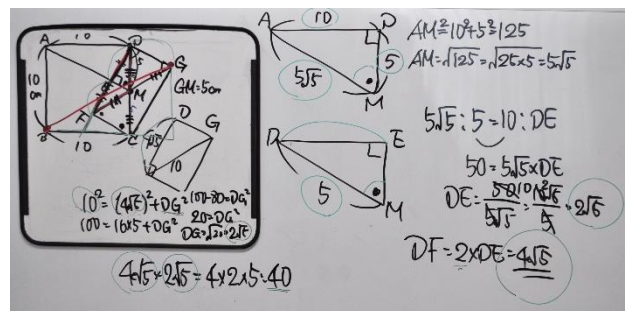
3 年生はいよいよ受験シーズン本番。昼休み、自主的に学習室で勉強する姿があった。

3 年生の先生方を中心に、わからないところを、授業中とは一味違った 1 対 1、マンツーマンでの指導をしている。

既に進路が内定している仲間も来て、ミニティーチャーとなって勉強に協力している。この気持ちも嬉しい。受験はつくづく「団体戦」だと思う。仲間が大きな力を与える。

その昼休みに、私も学習室に向かった。

入試の難問を前に、時間オーバーとなってしまった。時間のある時に、続きをやりたいから、ぜひ校長室に来てほしいと伝えていた。すると 4 人で来てくれたのだ。



そうなるともう、教師魂に灯が点く。

専門教科は国語だけれど、数学でも英語でも理科でも、社会でもちょっとなら…来てくれるなら、何でも来いだ。

ホワイトボードを使って説明をしていると、彼らの真剣な眼差しに、こちらもつられてどんどん解説に熱を帯びてくる。

新潟県は特に数学が要注意だ。難問が最後に来るとは限らない。

入試はマラソンだと思う。途中トラブルがあっても、そこで粘ること。自分のペースを守ること。呼吸を整えること。そうしているうちに、神様がポコッとご褒美をくれる。

空いている時間はいつでも、誰でも（3 年生とは限らない）お相手しましょう。

私は孫のような君たちと、問題を解きながらキャッチボールするのが、とても嬉しいのです。